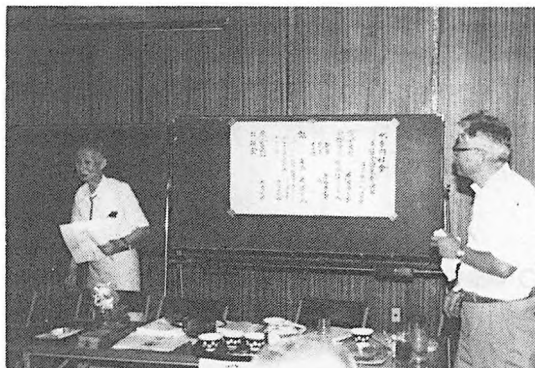


また、準備委員として、御協力下さった相生啓子・片山舒康・斎藤英樹・土谷岳令・野原精一・林浩二・原茂樹・山崎史織の諸氏並びに室内の展示品（写真パネルなど）にご協力いただいた会員で、食虫植物研究会の小宮定志、ホテイアオイ研究会の沖陽子、国立公害研究所の野原精一、ジュンサイを残そう会会長の松田仁松およびため池の自然研究会会長で副会長の浜島繁隆先生らに厚く御礼申し上げます。

さらに、ご祝儀を賜った名誉会長の原田市太郎・松岡鈴子・ホテイアオイ研究会会長の植木邦和先生ら並びに北隆館に対し、深く感謝いたします。

(昭和63年8月28日記)



第1回全国集会(1979. 8. 19) 左)原田市太郎初代会長、右)大滝末男現会長

水草研究会第10回全国集会報告

水草研究会第10回全国集会は、都立神代植物公園植物会館を会場とし、北は宮城県から南は鹿児島県まで61名の参加をえて、1988年8月6日～7日に開催されました。その概要を報告します。

〔研究発表〕

今回は、手近なフィールドがないことなどから恒例のエクスカージョンを実施せずに両日とも研究発表としました。サーキュレーションでお知らせしたとおり、「日本の水草相の変遷と現状」を中心テーマに話題を募集し、下記の11題の発表がありました。

地域、種、全般と、とりあげ方はさまざまでしたが、それぞれ興味深い話題で、討論も盛り上がりました。個々の問題に結論がでるといより、今後の研究の方向性を考えさせられた2日間のように感じています。

8月6日

1. 松井宏明：イバラカイ湖（パラグアイ）の水草紹介
2. 沖陽子・宇根和昌：都市小河川倉敷川が有する顔
3. 浜島繁隆：木曾三川下流部の岸辺の植生
以上 座長：国井秀伸氏
4. 橋本卓三：広島県芦田川下流域におけるオニバス自生地の消滅
5. 小宮定志：ムジナモの分布の変遷と現況、保護対策
6. 野原精一：尾瀬沼と湯の湖におけるコカナダモの生態

7. 角野康郎：西日本におけるコカナダモの分布と生態
8. 国井秀伸：コカナダモ研究の現状と問題点
以上 座長：浜島繁隆氏

8月7日

9. 桜井善雄：土木工事と水生植物群落
一わが国の現状と問題点一
10. 浅井康宏：日本の水生帰化植物フロラをめぐって
11. 生嶋 功：水草の生態学はいかにあるべきか
以上 座長：角野康郎氏

エクスカージョンを実施しない分、ゆとりある議論をしたい、と考えてプログラムを組んだのですが、やはり討論時間が不足してしまい、演者の方々にはご迷惑をおかけしました。大きな学会とは違うのですから、今後の集会では、じっくり意見交換のできるように日程を検討していただきたいと思います。

〔準備作業〕

都心からはずれ、交通の便がやや悪い会場でご面倒をかけたのですが、会場の植物会館では7月16日～8月14日に、本会の協賛により水草展が開催され、一般の方々にも水草を知っていただくよい機会になりました。資料などご提供いただいた会員諸氏にお礼申し上げます。

この全国集會をどのような形にするか、1987年12月・1988年1月・6月・7月の4回にわたり下記の準備委員が集まり、検討を重ねました。

参加会員の皆様のご協力に感謝申し上げますとともに、
数々の不手際をお詫びいたします。

準備委員代表：大滝末男。委員：相生啓子、片山舒康、
土谷岳令、野原精一、林浩二、原茂樹、山崎史織。
協力：斎藤英樹氏

(文責 林 浩二)

〔支出〕

会報印刷費	566,000
会報発送費	151,630
事務費(通信費、文具費)	24,900

合 計 742,530 円

○ 総会報告

次年度繰越金 292,056 円

1. 会員状況(1987.8 - 1988.7)

入 会	17 名
退 会	6 名
会則8条による退会	4 名
現会員数	241 名

3. 役員改選(1989 ~ 1990年)

名誉会長	原田市太郎
会 長	大滝末男
副会長	浜島繁隆・桜井善雄
幹 事	沖 陽子・角野康郎・国井秀伸・ 下田路子・田中 修・納田美也・ 林 浩二・別府敏夫・星 一彰

2. 昭和62年度会計報告

〔収入〕

前年度繰越金	186,856
会 費	769,500
別刷代	22,000
バックナンバー売上金	27,170
利 息	13,836
その他	15,224

4. 次年度全国集会開催地

松江を第一候補とし、島根大・国井秀伸氏にお世話願うことになった。

合 計 1,034,586 円

